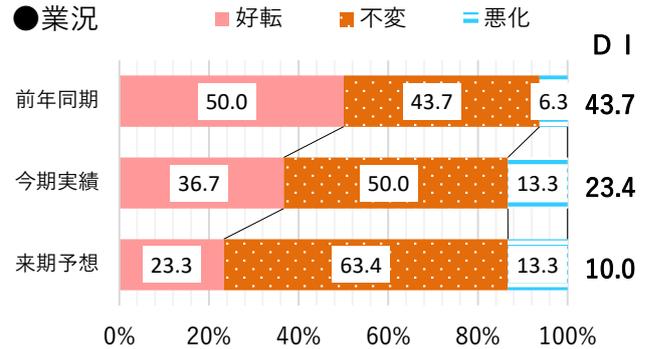


観光業

業況、売上、採算

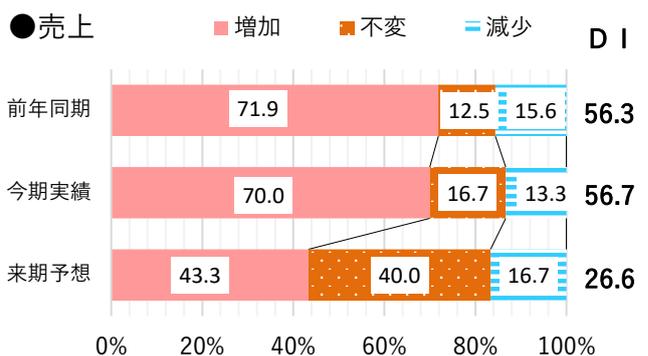
今期（2024.10～12）の業況判断DIは23.4で、前年同期(2023.10～12)と比べ20.3ポイント低下しました。

来期（2025.1～3）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



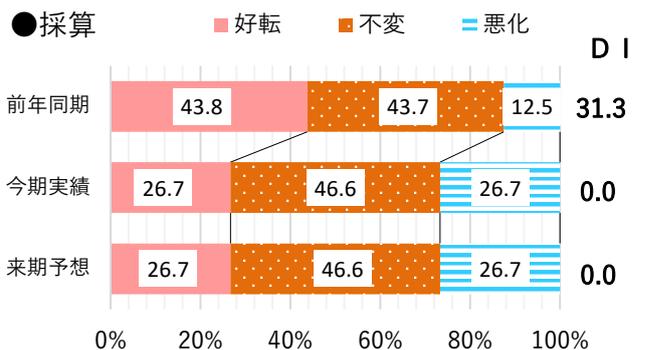
今期の売上DIは56.7で、前年同期と比べ0.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

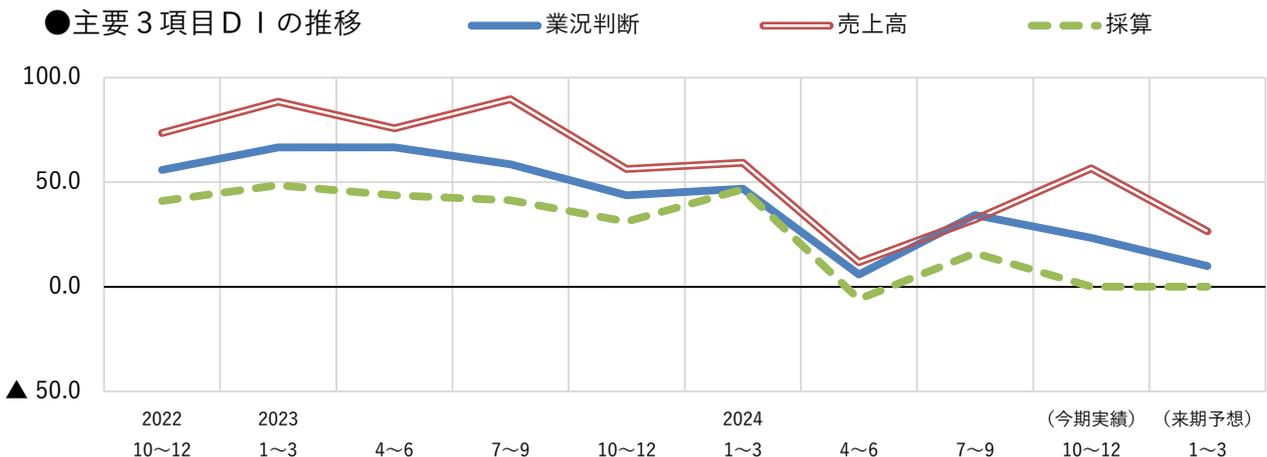


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ31.3ポイントと大幅に低下しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



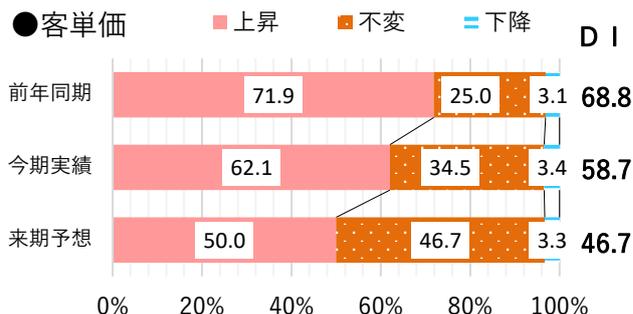
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

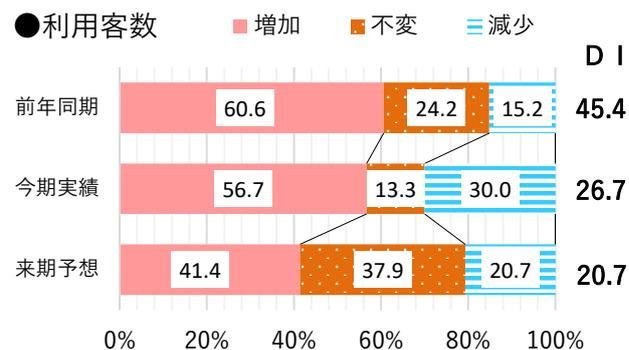
今期の客単価DIは58.7で、前年同期と比べ10.1ポイント低下しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



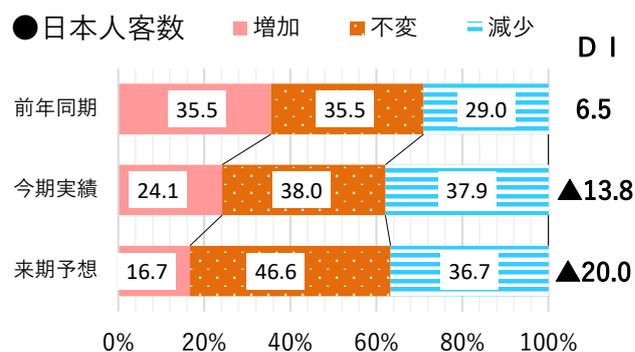
今期の利用客数DIは26.7で、前年同期と比べ18.7ポイント低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が弱まると予想しています。



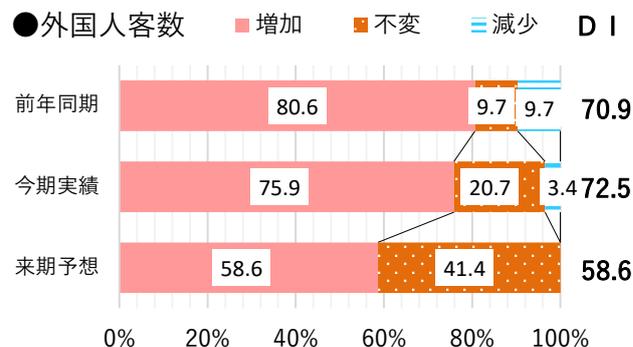
今期の日本人客数DIは▲13.8で、前年同期と比べ20.3ポイントと低下し、マイナスに転じました。

来期は、日本人客数の減少傾向が強まると予想しています。



今期の外国人客数DIは72.5で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

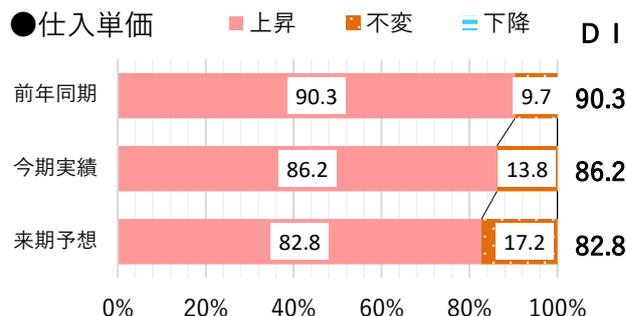
来期は、外国人客数の増加傾向が続くと予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは86.2で、前年同期と比べ4.1ポイント低下しました。

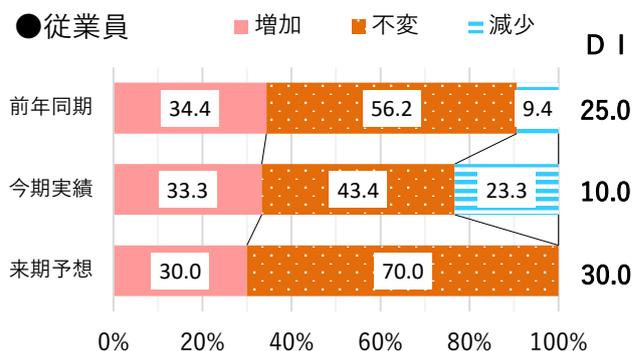
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



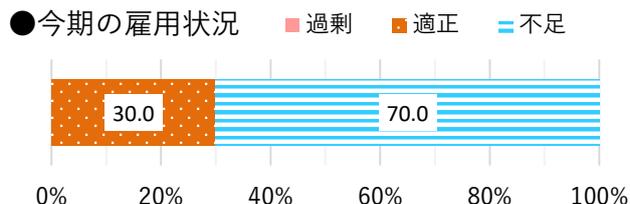
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは10.0で、前年同期と比べ15.0ポイント低下しました。

来期は、従業員数の増加傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は30.0%、不足していると回答した企業の割合は70.0%でした。



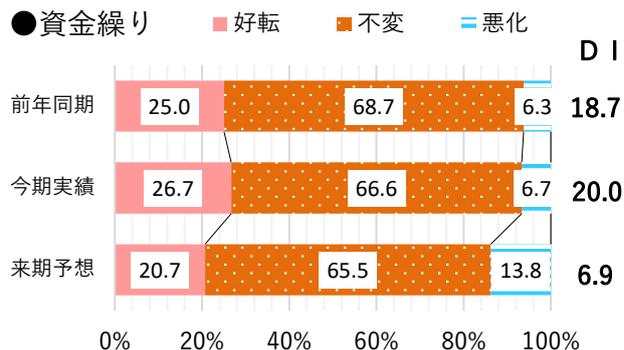
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、不足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答で、23.3%を占めました。回答全体では70.0%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	7
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	7

資金繰り、設備投資

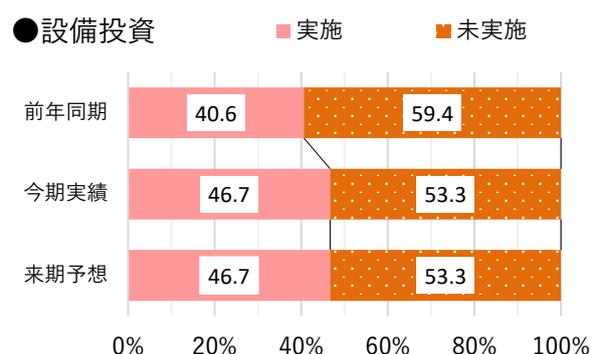
今期の資金繰りDIは20.0で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は46.7%で、前年同期と比べて6.1%上昇しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「サービス設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は46.7%で、横ばいを予想しています。

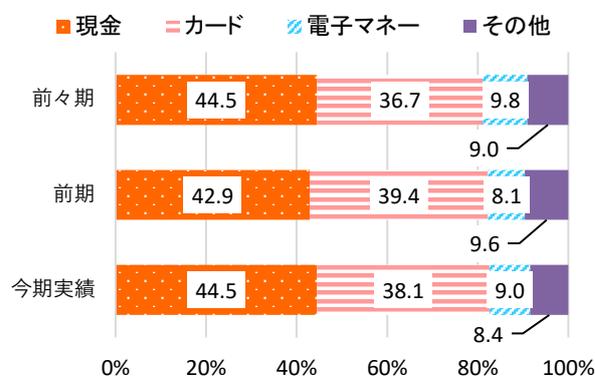


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で44.5%、2位がカードで38.1%、3位が電子マネーで9.0%、4位がその他で8.4%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、掛売り、クーポン券、銀行振込、ポイント決済、オンライン決済（d払い、paypay等）、バーコード決済、会社の福利厚生制度の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

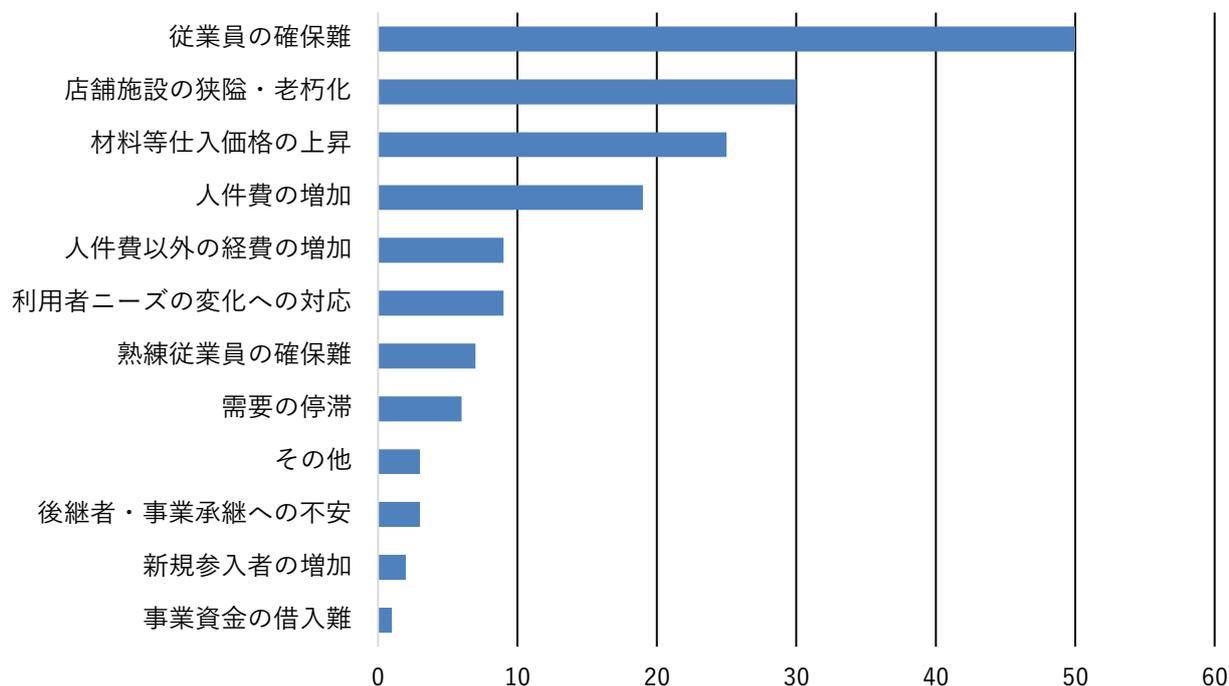


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は71.0%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 前期比で日本人客と外国人客の来店減を予想していたが、外国人客が減少しなかったため、業況を不変と判断した。売上は前年同期比で不変だったが、原材料と諸経費が上昇し続けているので採算は悪化した。年々、年末需要が衰退しており、今後を懸念している。相変わらず人手不足に大変苦慮しており、優秀な人材の確保と外国人採用で改善できないか、諸方面へ情報を求める等、試行錯誤している。（土産品）
- 原材料価格、販売管理費は引き続き上昇傾向にある。コロナ禍の頃からブランディングに注力していたため、支出の増加分は商品価格の改定により吸収できている。（土産品）
- 今年は国、道の旅行割引クーポン、市のプレミアム商品券がなく、厳しい状況だった。（土産品）
- 原材料価格は高止まりしているが、売上はやや増加した。（土産品）
- 11～12月は海外の方の売上が多かった気がする。（土産品）
- 閑散期ではあるが、昨年よりも観光客の利用が多い。（土産品）
- インバウンドが増加し、業況が好転した。（土産品）
- インバウンドの増加により好況だった。（土産品）
- 最低賃金と仕入価格の上昇を受けて商品を値上げしたため、売上が増加したように見えるが、それほど利益は伴っていない。前期に比べればマシという意味では好転した。（飲食店）
- 繁忙期のため売上が増加した。仕入や備品等全てにおいて値上がりしている。（飲食店）
- 利用者の割合は日本人客57%、外国人客43%だった。（飲食店）
- 日本人の利用が少し減少した。（飲食店）
- インバウンドの利用が増加した。国内客数は不変だった。（レンタカー）
- 人材が不足している。（レンタカー）
- 韓国を中心に、インバウンドが増加した。雪を楽しみに観光に来ているようだ。原材料費や光熱費といった経費の増加が、じわじわと経営を圧迫している。（ホテル）

- 昨年国や道が実施した旅行支援事業の反動で、春は低迷したが、夏前から需要が回復した。（ホテル）
- 円安によりインバウンドが増加した。仕入価格が上昇した。（ホテル）
- 予約状況が順調に推移した。（ホテル）
- 人材確保に苦慮している。（ホテル）
- 売上額が増加した。（ホテル）
- 清掃員不足、仕入価格、人件費の高騰、販売価格の上げ止まりに直面した。（コテージ・ペンション）
- グリーンシーズンにインバウンドが増加したことで集客が増えた。9月から新たな展示を行ったことで、日本人観光客も例年より好調に推移した。（社会教育）
- 前期比で人材は不足気味だが、乗船客数と売上がともに増加した。（水運業）
- 冬季は販売と仕入が低調となるため、変動幅は少なかった。（娯楽業）

[来期の業況について]

- 引き続き日本人客と売上は減少するが、外国人客の来店状況は変わらず、売上を維持できると予想する。例年冬は客数が減少するが、今期は外国人客の日本人気が続いているため、増加動向が続くと思われる。原材料、諸経費は上昇が続くので、採算は厳しくなり、人手不足も深刻さが増すと思われる。企業努力だけでは解決出来ないため、公的機関はじめ諸方面からの支援、援助を切に期待する。（土産品）
- 引き続き原材料価格や販管費が上昇するが、売上の増加で支出の増加分を吸収できると思う。（土産品）
- 原材料価格がさらに上がるが、一部製品の値上げで対応する。（土産品）
- 物価が上がっているため、日本人観光客は減少を見込む。（土産品）
- 引き続きインバウンドの増加による好況を見込む。（土産品）
- 冬期閑散期に入り、観光客が減る。（土産品）
- 先行きは不透明だ。（土産品）
- 今期に続いて繁忙期となるため、業況は変わらない。（飲食店）
- インバウンドはさらに増加すると思われる。（飲食店）
- 令和6年度とあまり変化がないと思われる。（飲食店）
- 今期の業況と同じ程度かと思われる。（飲食店）
- 今期同様、インバウンドは増加するが、国内客数は変わらないと思われる。（レンタカー）
- 人材不足による事業規模の縮小を見込む。（レンタカー）
- インバウンドの個人客による需要に期待する。人件費の高止まりや若手人材の確保の難しさから、組織の年齢構成がいびつになっている。（ホテル）
- 特にマイナス要因がないため、業況の好転を見込む。（ホテル）
- インバウンドが好調のため、好転を見込む。（ホテル）
- 仕入価格の上昇と人材確保に不安がある。（ホテル）
- 1月の後半は、予約の状況が良くない。（ホテル）
- インバウンドの増加を見込む。（ホテル）
- 冬はインバウンドの利用が本格化するため、期待する。（社会教育）
- 1年で最も閑散期となることから、業況は今期比で悪化を見込む。（水運業）
- 今期と同様に動きが少ないため、業況は不変を見込む。（娯楽業）